

コラム

東京の湧水

1. 東京の名湧水

東京都環境局が平成 30 年度に実施した調査で、都内では 608 箇所（区部 201 箇所、市町村部 407 箇所）の湧水が確認されています。東京都では都民に湧水に対して関心を持っていただくとともに、湧水の保護と回復を図るため、57 か所の湧水（23 区 16 箇所、多摩 38 箇所、島しょ 3 箇所）を「東京の名湧水」として平成 15 年 1 月に指定しました。

■東京の名湧水 57 選（出典：東京都環境局ホームページ）

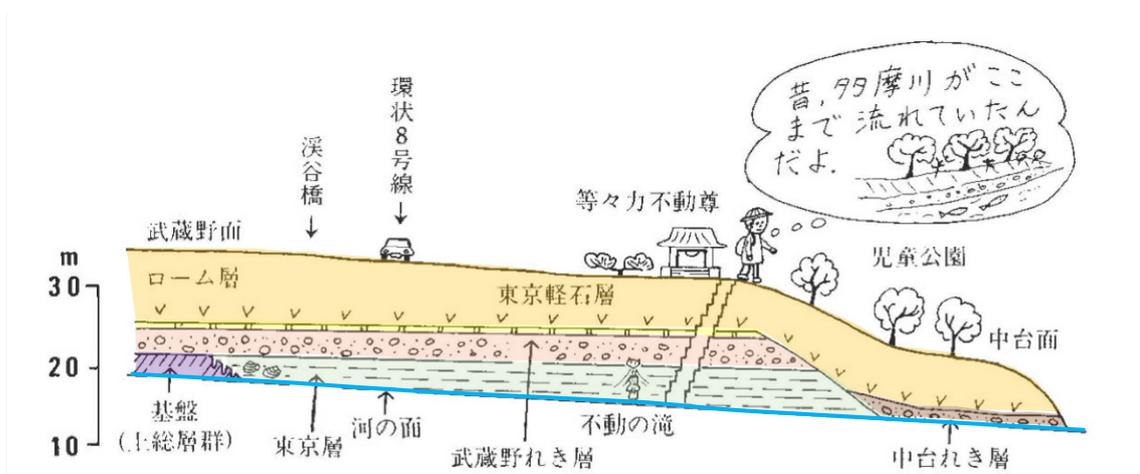
1	柳の井戸	港区	31	はげの森美術館	小金井市
2	おとめ山公園	新宿区	32	黒川湧水	日野市
3	関口芭蕉庵	文京区	33	中央図書館下湧水	日野市
4	目黒不動尊	目黒区	34	小沢緑地	日野市
5	田園調布せせらぎ公園	大田区	35	姿見の池	国分寺市
6	清水窪弁財天	大田区	36	新次郎池	国分寺市
7	旧六郷用水脇	大田区	37	殿ヶ谷戸庭園	国分寺市
8	旧六郷用水沿い洗い場跡	大田区	38	お鷹の道・真姿の池湧水群	国分寺市
9	等々力溪谷・等々力不動尊	世田谷区	39	ママ下湧水群	国立市
10	烏山弁天池	世田谷区	40	常盤の清水（谷保天満宮）	国立市
11	岡本静嘉堂緑地	世田谷区	41	清岩院	福生市
12	清正の井	渋谷区	42	湖畔ピオトープ	東大和市
13	善福寺川御供米橋下流	杉並区	43	二ツ池公園	東大和市
14	赤羽自然観察公園	北区	44	南沢緑地	東久留米市
15	不動の滝	板橋区	45	竹林公園	東久留米市
16	清水山の森	練馬区	46	黒目川天神社前	東久留米市
17	叶谷榎池	八王子市	47	龍の入不動尊	武蔵村山市
18	子安神社(中野山王)	八王子市	48	穴澤天神社	稲城市
19	六本杉公園	八王子市	49	威光寺	稲城市
20	片倉城跡公園	八王子市	50	二宮神社	あきる野市
21	小宮公園	八王子市	51	八雲神社	あきる野市
22	矢川緑地	立川市	52	祥安寺の清泉	奥多摩町
23	野川公園	三鷹市	53	獅子口の湧水	奥多摩町
24	岩清水（小澤酒造）	青梅市	54	釜の水	奥多摩町
25	西府町湧水	府中市	55	多幸湧水	神津島村
26	諏訪神社	昭島市	56	つづき湧水	神津島村
27	龍津寺	昭島市	57	大島分川	御蔵島村
28	深大寺不動の滝	調布市			
29	貫井神社	小金井市			
30	滄浪泉園	小金井市			

東京の名湧水は、多摩川が作った武蔵野台地の湧水と、多摩川の支川である秋川、浅川流域の湧水が主なものです。

ここで東京の名湧水の一例として、武蔵野台地の湧水である「等々力溪谷・等々力不動尊」（東京の名湧水 No.9）を紹介します。

等々力溪谷は東京 23 区内唯一の溪谷であるばかりでなく、都内では数少ない東京の地下の地質を見ることのできる場所です。等々力溪谷は、武蔵野台地南端部に位置しており、台地面の崖端を浸食して形成された開析谷です。この溪谷を流れる川（谷沢川）の両岸の露頭には武蔵野台地に分布している地層を見ることができます。その地層は、時代の古い順に上総層群（泥岩）、東京層（粘土層）、武蔵野礫層、中台礫層、関東ローム層です。等々力溪谷の地質概念図を下図に示しました。

関東ローム層の中には東京軽石層（約 6 万年前の箱根火山の新时期降下軽石層：略称 TP）が見られます。この東京軽石層は武蔵野面や中台面にも見られ、軽石層を含むローム層が階段状の地形を覆うように堆積したことがわかります。等々力溪谷では中台面には武蔵野礫層や、その下位の粘土が見られません。このことはかつて（約 5 万年前）、古い多摩川が中台面を流れて浸食したもので、武蔵野面と中台面が階段状になっている原因です。武蔵野礫層は褐色で、直径数 cm の丸い礫を多く含み、礫種は砂岩やチャートです。この武蔵野礫層と下位の東京層（粘土層）の境界からは地下水が流れ出ています。



■ 等々力溪谷の地質概念図

（出典：東京の自然をたずねて-大森昌衛監修,一部加筆）

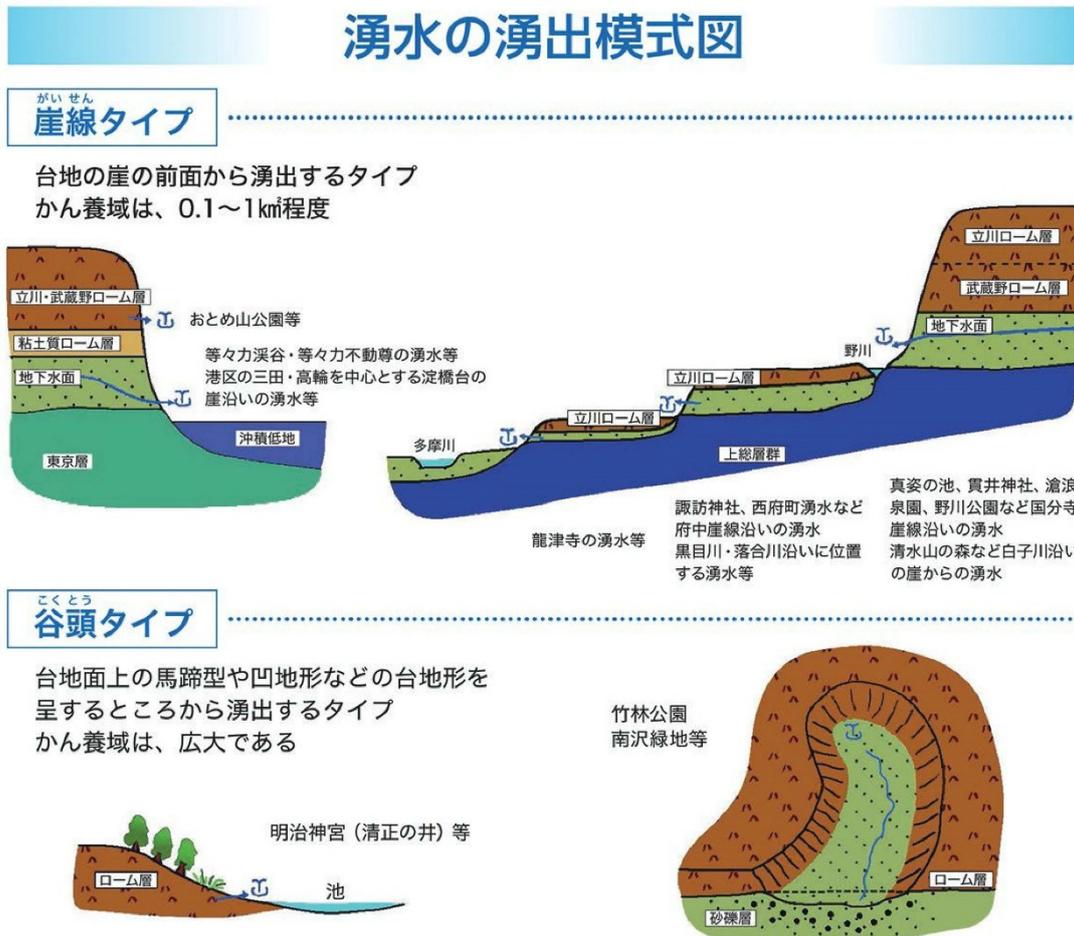
この溪谷内の等々力不動尊の崖には不動の滝とよばれる崖があります。ここでは下から東京層、武蔵野礫層、最上部にローム層が見られます。滝の水は武蔵野礫層と下位の東京層の境から湧出しています。



■ 等々力溪谷の湧水（不動の滝）

2. 湧水とは

湧水は、湧出形態の違いから、主に「崖線タイプ」と「谷頭タイプ」に分類することができます（下図参照）。

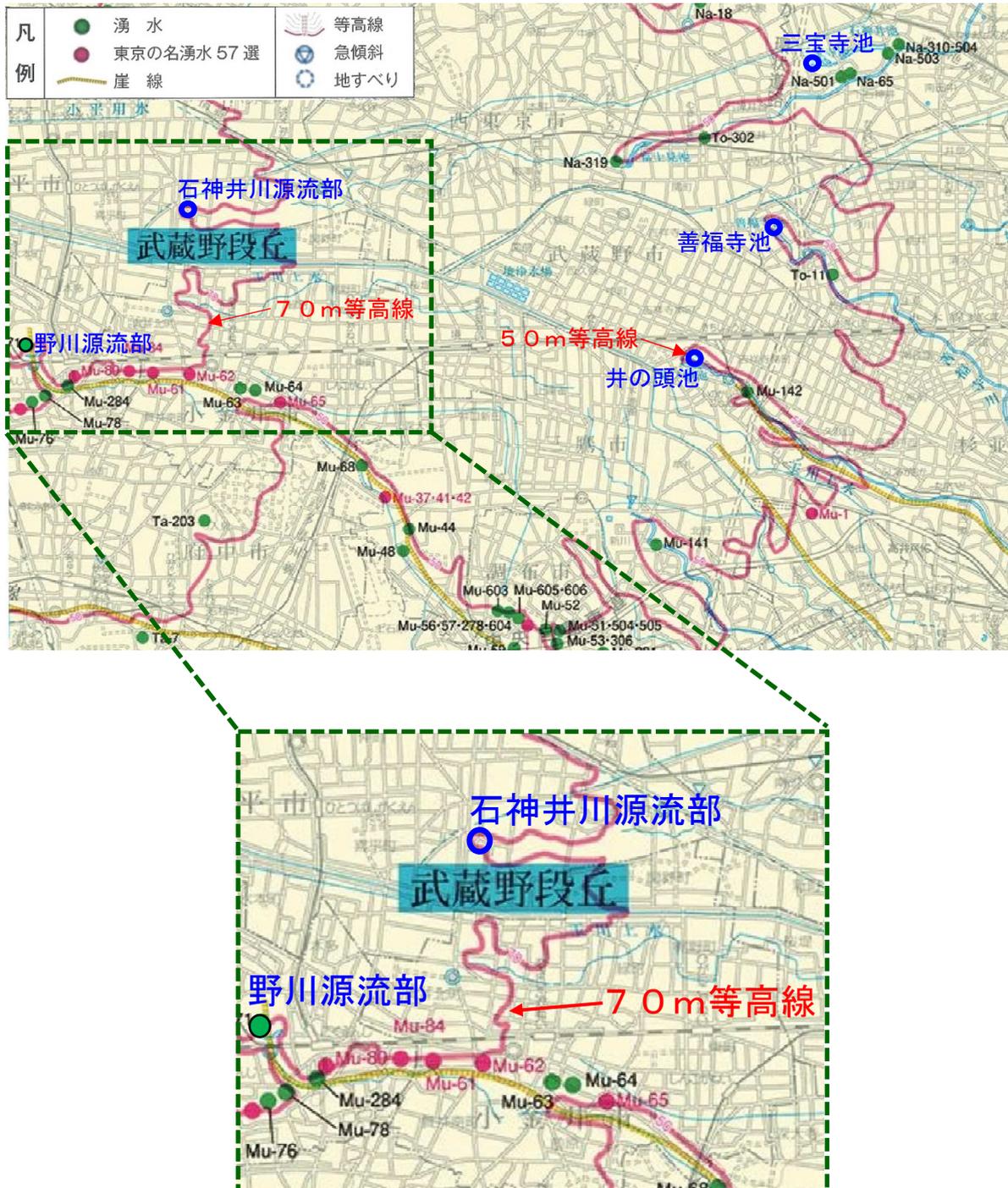


■ 湧水のタイプ（出典：東京都環境局ホームページ）

武蔵野台地の地下水は、ローム層の下位に分布する砂礫層に帯水し、窪地や崖線に沿って点在する湧水群などから湧出しており、これらを水源とした中小河川が発達しています。

このような湧水群は、多摩地区に多く標高約 70m の崖の下と、約 50m の崖の下に点在します。多摩地区東部の湧水マップを図に示します。湧水（図中●）は、「70m 等高線」と「50m 等高線」付近と河川流域に集中していることが分かります。これらの湧水群を水源とする野川は、「崖線タイプ」に該当し、比較的規

模が大きく武蔵野台地に発達する代表的な中小河川です。源流部は国分寺市の恋ヶ窪で、その崖上の標高が約 70m です。同じく武蔵野台地に発達する石神井川の源流は、現在の小金井カントリークラブ内にありますが、本来の源流部はさらに上流の 70m 等高線付近とされています。



■ 湧水マップ（出典：東京都環境局ホームページ,一部加筆）

一方、50m等高線の崖の下にはかつて武蔵野三大湧水と称された井の頭池、善福寺池、三宝寺池が分布しています。これらの湧水は「谷頭タイプ」に該当します。50m等高線の崖の下では武蔵野礫層が地表に露出しており、礫層中に形成された地下水脈から地下水が湧き出て武蔵野三大湧水池をつくりました。

ただし、これら武蔵野三大湧水は都市化の影響等により1970年前後に相次いで涸れてしまい、現在では深井戸からの揚水等により水量の確保を行っています。

※湧水については、「技術ノートNo.52 2020.2 東京の地下水」にて紹介していますので、あわせてご覧ください。

https://www.tokyo-geo.or.jp/technical_note/bv/No52/index.html?page=1

